正法寺新聞

2021.7
第18号
正法寺発行

今から二千五百年ほど前インドでお生まれになったお釈迦様は、お生まれになるとすぐに天と地を指さし、「天上天下唯我独尊（てんじょうてんげゆいがどくそん）」（天上天下にただ我ひとりにして尊し）と声をあげられたと伝わっています。これは、「世界中で一番偉いのは私だ」と言っているのではなく、一人一人かけがえのないのちを生きているということに目覚められた言葉で、「あなたは、誰とも比べることのできない尊い存在なのです」という呼びかけでもあるのです。人生の成功を、お金持ちになる、有名になる、競争に勝って人の上に立つ、人の役に立って感謝される、と考えている人は多いでしょう。しかし実際は、思い通りにならないといって苦しんだり、他の人と比べて自分を情けなく思ったり。このお釈迦様の呼びかけが聞こえないかぎり、勝ち負けや優劣のものさしだけで自分を計り、一生を過ごします。お釈迦さまのご誕生によって、何が本当に大切なことであるかが、はじめて明らかになったのです。

参考／ほとけの子リーフレット「花まつり」　（一楽 真）

※２年続けてお釈迦様の誕生を祝う「花まつり」が中止に。左上は簡略化し、正法寺キッズで祝った際の写真です。

お内仏お給仕講習会

7月18日（日）

※八女の仏具屋さんが来寺。仏具購入・相談はこの機会に。

お盆までの行事を紹介！

お盆までご自宅やお寺を整える行事が続きます。

詳細は、別紙のご案内を確認ください！

仏具を磨いてみよう

7月28日（水）

※仏具の磨き方を学びます。

※次のページで特集の「行いがわたしを導く時間」での活動です。

仏具磨き奉仕日

7月29日（木）

※お盆に向けて、お寺の大きな仏具を磨きます。手が足りません！よろしく！

おそうじの日

7月25日（日）

※毎月一回日曜日の朝開催中。お勤めとお茶の時間もあって気軽に参加できます。

月に一度は
お寺に行こう！

しんらん聖人ご命日のつどい

行いがわたしを導く時間

報恩の心に学ぶ
自分との向き合い方

SHINSHUOTANIHA-SENNENZAN-SHOBOJI

正法寺

順調に開催中！

正法寺本堂にて

「行いがわたしを導く時間」

この講座は、毎月28日、浄土真宗の宗祖、親鸞聖人の月命日に12月まで開催します。この講座では必ずお勤めとお念仏の時間があり、仏事に関わるさまざまなワーク《作業》を一緒に行っていきます。それらの経験の中からみなさんが「仏さまの心」に気付いていく、また、自分自身の内面と向き合っていく。そしてワークと自身への振り返りが感謝の心、報恩の心に繋がっていく。そんな時間（報恩講）にしていきます。

※「講」・・・僧侶や信徒が集まって行う各種の宗教儀式。

『行いがわたしを導く時間』

毎月28日13:30～15:30
参加費：500円
※略して「おこみち」と呼んでいます！

まずは、昨年の
『おこみち』より

2020年 11月
花をいけてみよう
「お花をいけるちょっとしたコツ」

こちらは住職が
少し本格的に
いけたものです。

みなさんは、
このいけ方に
チャレンジ！

昨年11月のテーマはお花。池坊の先生に10年来習っている住職が、仏華のいけ方を説明。お話の後は、実際にいける練習をしました。初めてのことに戸惑いながらも、形になっていくごとにみなさん夢中に・・・。
完成品はいかがでしたか？

自宅でも
いけてみましょう!!

そして、今年の
『おこみち』より

2021年4月
念珠を作ってみよう
「自分だけの念珠ってステキ」

今年の念珠作りでは、開始前から念珠作りの映像を流したり、玉を選ぶ前に色鉛筆で念珠イメージを塗ってみたり。初心者でも作りやすく工夫をしてみました。完成品は人それぞれ様ざま。次回から左腕につけてお参りくださいね。

始める前には
法務員の木村くんが
詳しい説明を
しました！

開始前に
動画で念珠作りの
順序見てイメージを
ふくらませます。

どんな色に
しようかな？

さぁ、
つくるぞ！

2021年5月
真宗門徒の終活ノート
「お葬式について考えてみよう」

「終活」という言葉が世の中に定着してしまったような…そんな今だからこそ、「お葬式」にまつわる儀式（枕勤め・通夜）について、改めて真宗ではどのように執り行って来たのか、どのような願いがそこにあるのか？、考えてみましょう。ということで、まずは住職からお話がありました。その後、使用したノートの最後を記入する練習。きっかけ作りとして、さだまさしさんの【バースデイ】という曲を聞きました。最後は、隣同士でノートに書いたことや、今日の内容について雑談をしました。お話に花が咲き、充実した時となりました。

今回は大阪教区から出されている「真宗門徒のお葬式」というノートを使いました。興味のある方はお声かけください。

毎回、正信偈の書写もあります。静かな非日常の時間です。

今後の日程

7月28日(水)　仏具を磨いてみよう（お荘厳を知る①）
「そろそろ仏具、磨きませんか？」

9月28日(火)　「親鸞聖人」の絵を楽しもう
「アートを通して親鸞聖人のご生涯を知ろう」

10月28日(木)　花をいけてみよう（お荘厳を知る②）
「お花をいけるちょっとしたコツ」

11月28日(日)　東本願寺の報恩講をみんなで観よう

12月5日～8日　ご正忌『報恩講』に参ろう!!

坊守の仏ブツ寺日記

大切にしているものは、ばれている。

昨年7月、大村は大変な豪雨に見舞われ、正法寺は地区の避難所になり、まさに、「眠れない夜」を過ごしました。そんな昨年の豪雨の折、とてもうれしいことがありました。夕方から夜にかけ今後さらに雨が酷くなるぞ、という判断で住職が子供に、

「一階に水が来たらいけないから、大切なものを二階に上げておきなさい。」

と子供に言ったらしく、

「お母さん！
お母さんがいつも大事にしとるあれ、あれとあれば二階に上げとったけんね。」

と、避難所の世話をしていた私に、次男がダッシュで走ってきて言ったのです。

「あれって何？」

「ほら下に置いとる写真と仏様のやつたい、大切とやろっ？」

それはいつもリビングの出窓に置いている亡き父の写真（子供から言えば会ったことのないおじいちゃんの写真）と、三つ折りにできるご本尊（阿弥陀さん）のことでした。

私は、本当に感心してしまいました。だって子どもにこれは大切しているんだよ、という説明なんてしたことがなかったから。そして、そんな風に思ってくれて心底よかったなぁ。と思いました。確かに大切にしていましたが、大切にしとるとやろ？と言われたことで、大切にしなきゃっ、と逆に教えてもらった、というようなことが起きたのです。こういうことがあるので、子育ては面白いと思います。

その後は、息子自身の大切なものも続々と二階へ持って上がっていたことも判明しています。ゲーム機とか・ゲーム機の充電機とかタブレットとか。

私が雷や大雨などの災害ですぐ心配してしまのは、電子機器や通帳などです、実際のところは。でも子供にはそう思われていなかったのです。大切にしているものは毎日の淡々とした時間の流れの中で伝わっていくもの、かもしれません。

子供も大人になる。
大人になったら
忘れちゃうのかな？

正法寺キッズも
息子たちと
まだまだ
開催中です！

洗心会々報

号外

こんにちは。正法寺でお手伝いをしている宮﨑貴子です。今回は、洗心会のみなさんとこれまでお斎の席に準備してきた料理の中から、手軽に作れる一品をご紹介します。今回は正法寺裏のエレナで見つけた「味だし付きこうや豆腐」を使った一品。とっても簡単ですよ！

使ったのは
↓こちらのこうや豆腐

【材料】（3～4人分）
・玉子（2～3ケ）溶いておく
・味だし付こうや豆腐（1袋）
・シメジ（1フサ）ほぐしておく
・玉ねぎ（1／4ケ）薄切り
・トマト（中1ケ）乱切り
※豆腐の湯戻しは不要です

【作り方】
①お鍋に水と味だしを入れ煮汁を作ります。
②煮汁が沸騰したら豆腐と玉ねぎをその中に入れます。
③その後シメジとトマトを加えさらに煮つめます。
④最後に玉子でとじます。

ご飯の上にのせて
丼ぶりにしたり、
鶏肉などお肉を加え
ても美味しくいただ
けますよ。ぜひ作って
みてください。

ワンポイント
コメント！

これも仏教用語?!

普段から使っている言葉には
仏教由来の言葉が実はたくさん。
そんな言葉を紹介します。今回の言葉は、

「邪　魔」（じゃま）

「おじゃまします」という言葉がありますが、これを漢字で書くと「お邪魔します」となります。「邪な魔」と書くんですね。まあ、自分のことを悪魔だと思っている人はほとんどいないでしょうし、逆に自分の周りに「邪魔な人」がいたり、「邪魔な物」があって困っている人はたくさんいるかもしれません。まして、「お邪魔します」という挨拶の返事に、もしも「おっ、邪魔者が来たぞ」なんて言われることがあったとしたら、びっくりしますよね。ところが、本来「邪魔」という言葉は、お釈迦さまの修行を妨げる“心の悪魔”を意味するものでした。仏教を説かれたお釈迦さまにとっても、自分の心の中に潜む魔（煩悩）の解決は、大変な問題だったのでしょう。世の無常に悩まれて出家されたお釈迦さまは、六年間の修行生活を捨てて、菩提樹の下にお座りになり、人間の苦悩の原因である心の闇（無明）をうち破り、さとりを得られました。それゆえに宗祖親鸞聖人も、お釈迦さまの教えを「無明の闇を破る智慧の光」（『教行信証』）であると讃えておられるのでしょう。そういう意味では、「邪魔」は私たちの外側にあるのではなく、私たちの心の内側、つまり、自分の都合で「邪魔な人」や「邪魔な物」を作りだしてしまうような、真実とはかけ離れた生き方をしている、私たち自身の暗い心のことをいうのです。　（本山記事より抜粋）

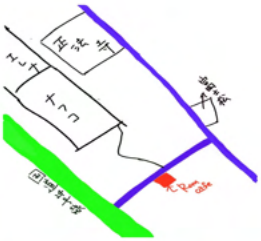
仁禮秀嗣　登別大谷高等学校教諭（宗教科）

み～つけた！

Romcafe
ロムカフェ

営業時間 / 11時から18時
〒856-0828
大村市杭出津2-697-4
0957-51-5794

コロナ禍につき、テイクアウト（お弁当）に特化してご紹介します。今回ご紹介するのは、正法寺から徒歩五分程の所にある「ロムカフェ」です。注文を受けてから作られるので、温かい手作りの洋食弁当がいただけます。価格は大村では珍しくワンコイン五百円(税込)、高くても千円でお釣りがでます。食べた感想としては、洋食屋さんのお弁当といった懐かしさや特別感が味わえます。たまには洋食、いかがですか？調理に十五分程かかるようなので、事前に予約されることをお勧めします。（法務員　島田）

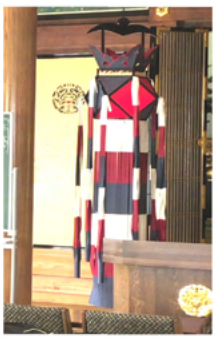


ある日のまかない弁当
500円

お盆あれこれ

切子灯籠（きりこどうろう）を知っていますか？

お盆が近まると、盆提灯などお内仏(仏壇)周りの事が気になりますね。親戚に提灯を購入してもらった、などのお話もお聞きします。真宗の盆飾りはどうするのだろう？といった疑問もあられるでしょう。詳しいことは7月18日の講習でお話しますが、真宗の正式なお飾りとして一つ、「切子灯籠」をご紹介しています。お寺にもお飾りするもので、ご家庭用の小さいものもあります。これでなければならない、という訳でもないですが一度調べてみられませんか？



正法寺でのお盆参り五か条

一、まずは本堂と納骨堂のご本尊に参ろう

一、お水のお飾りはいりません

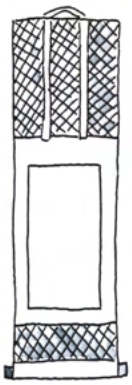
一、南無阿弥陀仏、
　　と声に出してお参りしよう

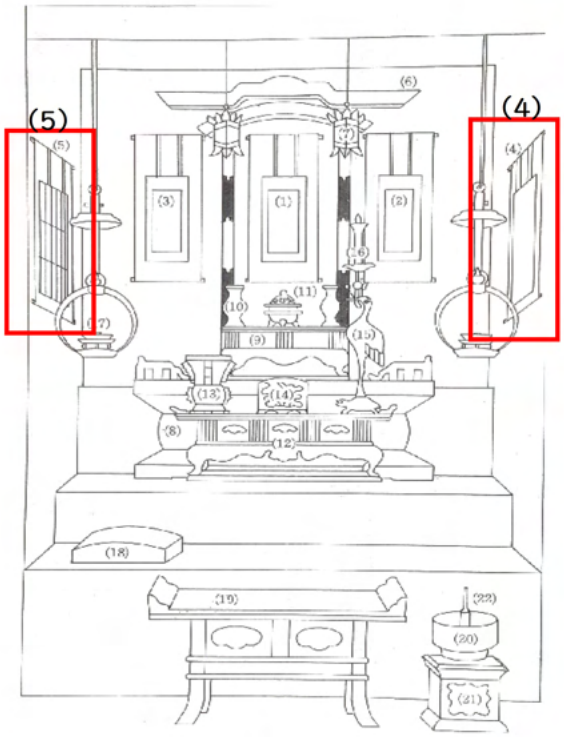
一、お供えは各自持ち帰って「お下がり」
　　としていただきましょう
　　（最後まで食べ物を大切に）

一、ゴミは持ち帰えろう
　　※納骨堂のゴミ箱は撤去いたしました

真宗・入門

▼法名軸





▼過去帳

※この絵は、最も道具の揃った状態のものです。これが全て必要というわけではありません。現在はご自宅の事情で さまざまな形があります。ここでは正式な形としてこの絵を元に解説します。

正法寺は真宗大谷派（しんしゅうおおたには）の寺院です

お内仏の荘厳（しょうごん）（お飾り）を知ろう！

前回に引き続き、お内仏のお飾りで気になるところを紹介します。今回は位牌についてです。

もともと位牌は仏教の風習ではありませんでした。中国の儒教をルーツとし、仏教伝来時に混じって入ってきました。日本において位牌は、死者の魂がこの一枚の板の中に留まるものとして考えられてきました。しかし真宗においては、亡き人は位牌に魂として留まるのでなく、亡くなられてすぐに浄土に還（かえ）られて諸仏となられた方として敬うため、位牌を用いることは推奨されておりません。なので真宗では、上記の法名軸や過去帳に法名を記入し、法要時に飾るのが本来のかたちとなります。

大村のお寺では、宗派関係なく位牌文化が残っており、真宗だからといって直ちに過去帳に移写する必要はありませんが、前回お伝えしましたように、ご本尊をさえぎることがないよう置く場所には気をつけましょう。位牌を置くスペースが無くなった場合は、上記のような過去帳や法名軸に移写することをお勧めします。また法名軸は、通常は上の絵の４に飾り、連名の法名軸は、５の位置に飾ります。過去帳は、台に載せてお内仏の中段か下段に置くようにします。何か質問があれば、ご法事や月参りの際に直接お尋ねください。

（文責／法務員　木村）

住職が語る『正信偈』第１８回

天親菩薩造論説　帰命無碍光如来

さて、今回から依釈段の天親章という段落に入ります。親鸞聖人が大切にされた御念仏の教えを正しく解釈し後世に伝えて下さった七人の高僧達。その七人の高僧の教えをそれぞれの著書を依り処として説かれていくのが依釈段であり、今回は二人目である天親菩薩の教えが『浄土論』という著書にもとづいて語られていきます。

まずは、天親菩薩がどのような人物であるか見ていきましょう。天親菩薩はインドの北方、ガンダーラ地方で活躍された高僧です。西暦三二〇年～四〇〇年頃、もしくは四〇〇年～四八〇年頃の八〇年の生涯を生きたと二つの説があります。七高僧の一人目、龍樹菩薩が亡くなられてから、だいたい二〇〇年ほど後のインドで活躍されたことになります。また我が宗派では伝統的に「天親菩薩」とお呼びしますが、これは古い翻訳の経典にでてくる名前です。後の訳では「世親菩薩」と訳すことが定着しており、こちらの呼び名の方が一般的です。

初期の仏教は出家者による自らの救済を目的とし、釈尊の教えを分析・解釈し体系化して学問として追求するという形で発展してきました。その中から出家者個人のみの救いではなく、在家者を含むあらゆるものの救済を掲げる大乗仏教という仏教内部の信仰運動がおこります。大乗とはその名の通り大きな乗り物です。あらゆるものを救うためには充分な大きさの乗り物が必要なのです。正信偈でも「宣説大乗無上法」と説かれているように、大乗仏教を体系化し基板となるものをつくって下さったのが、先に登場した龍樹菩薩です。その大乗仏教では龍樹菩薩の死後、「唯識」と呼ばれる思想が大きな影響を持つようになります。その唯識を教学として大成させたのが天親菩薩なのです。

天親菩薩は「千部の論師」と言われるようにたくさんの著作を残されていますが、その中でも親鸞聖人が大切にされたのが『浄土論』と呼ばれる著書です。正式名称は『無量寿経優婆提舎願生偈』というなんとも難解なタイトルがつけられていますが、「優婆提舎」というのは梵語の「ウパデーシャ」という言葉を音写したした訳語で、「お経の内容を注釈しまとめたもの、注釈書」という意味があります。つまり「大無量寿経のこころをひもとき明らかにし、浄土に生まれることを願った偈」という意味の著書になります。

この『浄土論』は日本の浄土教において非常に大切な経典とされています。ですから、親鸞聖人は天親菩薩のことを語られるにあたり、まず「天親菩薩造論説」と、つまり「天親菩薩が浄土論を著されて、大切な真実教である大無量寿経の正しい意を明らかにして下さった」と感動をもって讃えられているのです。そしてその『浄土論』の冒頭は「世尊我一心　帰命尽十方　無碍光如来　願生安楽国」、すなわち「世尊（お釈迦様）よ、私は一心にあまねくものを照らし導く阿弥陀如来に帰依し、安楽の国である阿弥陀のお浄土に生まれることを願う」と自らの信仰の表明で始まります。このことを親鸞聖人は「帰命無碍光如来」、つまり「さえぎるもののない無限の光の如来である阿弥陀如来に帰依して、そのあらゆるものを救おうという本願を依り処とされた」と説かれているのです。大無量寿経という経典を注釈するにあたり、まず最初に自らの信仰を表明された。親鸞聖人もまたそのことに共感されて、正信偈の最初に「帰命無量寿如来　南無不可思議光」と自らの信仰を明らかにされます。その意味を改めて次回以降も天親章に尋ねていきたいと思います。

本山併設【しんらん交流館】より発信の
ご法話がYouTubeにてご覧いただけます。
上記写真のQRコードを読み込むか、
スマホ・パソコン等で『しんらん交流館』
と検索ください!!

正法寺LINE公式もあります。
まずはお友達登録を！

真宗大谷派
専念山　正法寺
大村市杭出津2-708